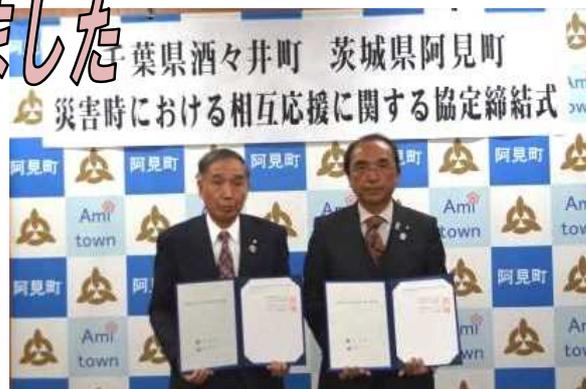


報告1 災害時相互応援協定の締結について

茨城県阿見町と協定を締結しました



(阿見町ホームページより)



1月10日に茨城県阿見町と当町との間で「災害時における相互応援に関する協定」を締結しました。

今回の協定締結に至った経緯ですが、共にプレミアム・アウトレットが立地している酒々井町と阿見町の間で、防災・商工関係等の状況や課題について情報交換を行っていましたが、大規模な災害発生時には多くの機関との連携が必要となることから、県外の単独自治体との災害協定締結に至りました。

この協定の趣旨は、地震等の大規模災害が発生し、被災した自治体単独では十分に被災者の救護その他の応急措置が実施できない場合に、相互に必要な応援を迅速かつ効果的に実施しようとするものです。

なお、今後、茨城県阿見町とは更に連携を図りながら、防災の分野だけでなく、様々な分野において交流を進めていきたいと考えております。

このほか、10月16日に関東町村会において、「災害時における相互応援に関する協定」が締結されました。

この協定により、関東町村会を組織する茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県及び山梨県の町村が災害に遭い、応急対策を実施する必要が生じた場合に、町村会が窓口となり、応援要請を行うこととなりました。



報告2 第5回輝く創年とコミュニティ・フォーラムについて

輝く創年とコミュニティ・フォーラムを開催

テーマ『地域がつなぐ輝く創年と子供たち』

酒々井まちづくり研究所主催



創年（※）とまちづくりの事例などを学び考える「第5回輝く創年とコミュニティ・フォーラム」が、11月12日に中央公民館とプリミエール酒々井を会場に開催されました。

このフォーラムは、酒々井まちづくり研究所のメインイベントとして平成25年から開催されているもので、同研究所研究員と行政が「コミュニティ・フォーラム実行委員会」を組織し、運営を行っています。

午前中の分科会は、中央公民館を会場に「人と人を結びつける地域活動の実践」を主題に、3つのテーマごとに9団体から発表が行われました。町外からも多くの方にお越しいただき、参加者は約150名でした。

午後からは、プリミエール酒々井に会場を移し、オープニングでは、酒々井中学校吹奏楽部によるすばらしい演奏、つづいて青少年おもてなしカレッジによる小中学生が、元気な歓迎の言葉で参加者を迎えました。



基調講演では、全国生涯学習市町村協議会会長・岩手県金ケ崎町長の高橋由一氏から「生涯教育とまちづくり」という題目で講演をいただき、続く分科会レポートでは、午前中に行われた各分科会のコーディネーター、第1分科会の鮫島真弓氏（全国生涯学習まちづくり協会）、第2分科会の新和宏氏（千葉県立中央博物館）、第3分科会の朝倉真一氏（千葉県教育委員会）の3名から各分科会の内容が報告されました。

シンポジウムでは、「地域と創年・子供」と題し、コーディネーターに、福留強氏（酒々井まちづくり研究所長）、パネリストに塩見みづ枝氏（文部科学省）、永池榮吉氏（公益社団法人スコーレ家庭教育振興協会会長）、鈴木美奈子氏（順天堂大学）、そして私も加わり、各氏からは仕事に関わる施策や私生活での事例など、創年と子供に関わる貴重なお話しをしていただきました。参加者は、約150名でした。



今後も住民によるまちづくりを考える場として、全国のまちづくり関係者との交流事業等を行い、協働によるまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

※創年：「新たな人生に挑戦し、生涯現役を目指す人々の呼称」とする造語

報告3 プリミエール酒々井増築事業について

プリミエール酒々井は、図書館や文化ホールを備えた複合施設であり、生涯学習の拠点として平成15年度に建設されました。建設後10年を経過した頃より、会議室や世代間の交流スペースに対する要望が多くあり、町の中心に位置し利便性も高いプリミエール酒々井を増設することが最適であると考えました。



併せて、平成26年度に、町の「子ども子育て支援事業計画」策定の際に実施した町民ニーズ調査において「**図書館などに隣接した場所に児童館のような室内遊びの場があったら良い**」という子育て世代からの要望もあったことから、プリミエール酒々井の増築に係る設計を平成27年度に行ったところです。

町財政の厳しい折、様々な財源を模索する中で、平成29年1月、国の補正予算で措置された「地方創生拠点整備交付金事業」に該当することで、計画から2年越しとなりましたが、本年3月議会で補正予算の承認をいただき具体的に事業を進めてきました。本交付金事業は、子育て世代や高齢者の世代間を超えた地域のつながりの中で、少子高齢化に対応した地域づくりへの取り組みとして交流の場などを設置するもので、以前からの町民ニーズに対応した町の事業計画にも合致するものでした。

早速、設計内容を見直し、5月に第1回目の入札を行いました但成立せず、第2回目を7月に行い、落札者が決定し、臨時議会においてご審議いただいたところ、賛成議員は、須藤、酒瀬川、川島、内海、越川、高崎の6名の議員であり、賛成少数で否決となってしまいました。

しかしながら、町民の皆様、特に子育て世代の方々からの要望もあり、町としても是非とも完成させたいとの思いから、9月に第3回目の入札を行いました但落札者が契約辞退し、更に10月に第4回目の入札を行いました但応札者がなく不調となり、事業実施にまで至ることができませんでした。

◎今後について ～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

本事業は、国の交付金や補正予算債を活用することで、実質的な町の負担は1割弱となり、町にとって大変有利な財源が確保されていたものですが、適正工期を考慮した事業進捗を考えると、これ以上の事業継続は不可能と判断し、内閣府に対し、交付金事業中止の申し入れを行いました。

町民皆様の要望に応えることができず、このような結果となり、非常に残念に思います。

プリミエール増築事業については、議会のご意思を重く受け止めて参りたいと考えておりますが、町としましては、今後も、地方創生、子育て支援、定住促進など「100年安心して住めるまちづくり」の取り組みに最善を尽くしてまいりたいと考えています。